

複合病害抵抗性イネの栽培実験

(栽培実験期間：平成28年度)

確認項目	確認結果
交雑防止措置について	○交雑防止措置について 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）生物機能利用研究部門の本栽培実験は、農研機構観音台第7事業場の隔離ほ場において、水田区画については隔離距離による交雑防止措置を取り、同事業場内の同種栽培作物までの距離が30m以上、同事業場外の最も近い水田との距離は500m以上であることを、畑ほ場においては開花前に栽培を終了したことを確認しました。
	○選定場所における風の影響について 栽培実験区画は、過去のデータから、イネの開花期における平均風速が毎秒3mを超えないことを確認しました。
	○開花前の低温により交雑の可能性が想定される場合の措置について 交雑の可能性が想定されるような低温にはならなかったことを確認しました。
	○モニタリング措置について モニタリング用の指標作物の種子約15,095粒を調査した結果、交雑が認められなかったことを確認しました。畑ほ場の栽培については、開花前に鋤込みを行い、栽培を終了したため、モニタリング措置の対象ではありません。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について 実験の種子は密閉容器に入れ、他の種子と区分して管理していることを確認しました。 また、水田区画では田植えから収穫後まで、畑ほ場では播種から栽培終了まで防鳥網を設置し、野鳥等の食害による拡散を防止したことを確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について 栽培実験区画で使用した機械等は同区画内で付着物を払い落としした後、隔離ほ場内の洗い場で洗浄したこと、被服等は栽培実験区画付近で払い落としを行ったことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理等について 収穫物は密閉容器に入れ、他の収穫物と区分して実験室内で保管・管理していることを確認しました。畑ほ場の栽培については、収穫物はなかったことを確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理等について 水田区画のイネ残渣（ワラ等）及び畑ほ場で栽培したイネ植物体は、隔離ほ場内に埋設又は鋤込むことにより、不活化したことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて 平成28年度は後作を行わず、平成29年度に遺伝子組換えイネの栽培を予定していることを確認しました。
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について 計画書について、平成28年4月8日にプレスリリースにより公表したこと、同日に農研機構のホームページに掲載されたことを確認しました。
	○説明会の開催等について 説明会を平成28年4月27日に開催し、8名の参加があったこと、見学会は2回（41名）行ったことを確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について 説明会の開催案内を含め、栽培実験の経過等について、11件の情報が農研機構のホームページに掲載されたことを確認しました。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について 本栽培実験における栽培終了後の処理等について、平成29年2月8日に農研機構のホームページに掲載されたこと、また、本栽培実験の結果について、平成29年5月13日に別途開催した説明会において説明したことを確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	○栽培実験に係る管理体制の整備について 栽培実験責任者、作業管理主任者及び情報提供主任者を指名して管理体制を整備していることを確認しました。

(参考) 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門の栽培実験に係る情報提供について

「第1種使用規程承認組換え作物栽培実験指針」では、栽培実験の開始前から終了に至るまで適宜、情報提供することとしています。
カルビンサイクル強化イネの平成28年度栽培実験に係る情報は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構ホームページ(以下のURL)にてご覧いただけます。

<http://www.naro.affrc.go.jp/nias/gmo/news/fiscal/2016/index.html>

以下に、掲載されている情報の一部をご紹介します。



田植えの様子
(平成28年6月7日)



収穫の様子
(平成28年10月11日)